

# 学会、折尾駅保存要望

## 「国指定文化財なり得る」

日本最古の立体交差駅、JR折尾駅（北九州市八幡西区）の駅舎・立体交差・地下道の一体保存や文化財価値の調査と報告書作成を求め、産業考古学会（伊東孝会長、事務局・東京）が北橋健治市長あてに要望書を提出した。市は駅舎を折尾地区総合整備事業の鉄道立体化に伴って解体し、新駅舎を建設する予定だ。

要望書によると、1000年近い歴史がある木造の優美な折尾駅舎は、門司港駅と並ぶ市のランドマークとして全国的に知られる。立体交差とれんが造りの地下道も鉄道ファンの「訪ねて

みたい場所」になっており、折尾地区の歴史を物語る重要構造物の価値を持つ、と指摘。「開発で消滅した交通文化財が消滅することを大いに懸念している」と訴えている。

要望書は6日に提出。学会理事で、市文化財保護審議会委員の清水憲一・九州国際大教授（近代日本経済史）は「折尾駅がどんな価値があるのか、市は専門家の意見を聞いていない。価値を調査、確認すれば、国指定クラスの文化財になり得る。由緒ある駅をなぜ壊すのか」と話している。駅舎については、市と地元住民らの団体が2009

年6月、シンボリックな部材を使って複製保全する方針を決定。市教委はこれを受け、駅舎について審議会に調査審議の諮問はしない考

え。審議会委員からは09年12月、「文化財的価値を調査する機会がなかったことは遺憾」との意見が出た。  
（坂本康浩）

# 北九州

報道センター  
（北九州）  
TEL 093・563・1150  
FAX 093・563・1173  
メール

2011年（H23年）7月22日 朝日新聞